

児童虐待防止対策の更なる強化を求める意見書（案）

東京都目黒区で両親から虐待を受け女兒が死亡する事件後、また、千葉県野田市で小学4年生が死亡するという痛ましい事件が起こってしまいました。このような虐待事案は、近年、急増しており、平成28年度全国の児童相談所に寄せられた児童虐待相談件数は12万件を超え、5年前と比べると倍増しています。こうした事態を重く受け止め、政府は平成28、29年と連続して児童福祉法等を改正し、児童虐待防止対策を強化してきました。しかし、今回の事案は、児童相談所が関与していたにもかかわらず、虐待から救うことができませんでした。虐待から子どもの命を守るためには、子どもの異変に早期に気づき、虐待の芽を摘むことが何よりも重要であり、そのためには児童相談所のみならず関係機関や民間団体等が協働し、虐待の防止に取り組むことが必要です。よって、政府に対して、こうした痛ましい事件が二度と繰り返されないためにも、児童虐待防止対策の更なる強化に向け、下記の事項に取り組むことを強く求めます。

記

- 1 新たに政府が策定した「児童虐待防止対策体制総合強化プラン」を促進し、市町村における児童虐待防止体制の強化プランを新たに策定するとともに、必要な財源確保のための施策を着実に推進すること。
- 2 子どもの問題を児童相談所に一極集中させている現状を改めること。具体的には、児童相談所と市町村の役割分担をさらに明確にするとともに、専門職員を確保し、養護施設等やNPO等民間機関・団体や他の行政機関等との連携を強化して役割分担・協働を加速する「児童相談体制改革」を行うこと。
- 3 児童相談所間および児童相談所と市町村の情報共有については、仮に転居があつたとしても、危機感や支援状況が確実かつ迅速に引き継げるよう、引き継ぎの全国共通ルールを定めるとともに、全国からアクセスできるシステムを整備すること。また、児童相談所と警察との情報共有については、児童相談所が必要とする情報がタイムリーかつ確実に共有できるようにするとともに、適切かつ効果的に情報共有できるシステムを新たに構築すること。
- 4 全国共通ダイヤル「189」を児童虐待通告に限定して、児童相談所の相談できる窓口につながるまでの間に未だ半数以上の電話が切れている実態を速やかに

検証・分析し、その結果を踏まえ、児童相談所への通告の運用改善に努めること。

5 保育所や幼稚園・学校と情報共有を図ること。いじめ防止対策と同様、小中学校の校務分掌に虐待対応を位置づけ、対応する組織を明確化するとともに、配置を強化したスクールソーシャルワーカーを中心に、学校における虐待対応体制を整備すること。

以上、地方自治法第 99 条の規定により意見書を提出します。

平成 31 年 2 月 12 日

埼玉県和光市議会

内閣総理大臣	安倍 晋三 様
総務大臣	石田 真敏 様
文部科学大臣	柴山 昌彦 様
厚生労働大臣	根本 匠 様
国家公安委員会委員長	山本 順三 様